



NURSE

がん患者および家族と面談する際のコミュニケーション・スキル

N: Naming (命名)

「あなたにとっては腹立たしいことのようにおもわれます」
「これからのことが心配なんですよね」
「それは本当に寂しいことですね」 など

U: Understanding (理解)

「そのようなことが起こったら、私もそう思いますよ」
「そのような状況に置かれたら、皆さん、そうおっしゃいますよ」
「あなたが寂しいのも当然のことだと思いますよ」 など

R: Respecting (承認)

「よく頑張られましたね」
「そんなふうに使われているなんてすごいことですね」
「あなたが頑張っていることは、素晴らしいことだと思います」 など

S: Supporting (支持)

「病気と闘っている間、側にいますよ」
「できる限りの方法でお手伝いします」
「みんなで一緒に考えますよ」 など

E: Exploring (探索)

「今はどのようなお気持ちですか？」
「もっと詳しく教えていただけますか？」
「心配していらっしゃることをお話していただけますか？」 など

“NURSE”は、「共感するスキル」の一つです。具体的な「話しかけ」の例文を載せています。参考にしてみてください。



文責：緩和ケアCN 松山美保

コロナ禍の手袋について



コロナ禍で一般社会でも手指消毒やマスクの着用が普通になりました。スーパーなどでも手袋を着用してレジ打ちをしている場面をよく見かけます。

私はそのたびに「あの手袋はいつからいつまでつけるんだろう。きれいなのかな・・・」と考えてしまいます。職業病ですが・・・。

しかし、これは病院でも同じことが言えて、手袋を着けたままの職員を見かける時があります。どういう意図で手袋をずっとつけているのかはわかりませんが、自分を守っているつもりなのかな～と思います。しかし、ずっとつけっぱなしの手袋は汚れているので、その手袋についた菌をあちこちに運んでいることとなります。また、手袋をずっとつけることで手に汗をかいてしまい、手袋の中で細菌が繁殖してしまいます。自分を守っているつもりかもしれませんが、自分も守れていないし、周囲の人も守れていません。

ここで手袋の着用が必要な場面を再確認しましょう。**手袋は、手が汚染するかもしれないときに手指を守るために使用します。その場面が終了したら外して、手指衛生を行うというのが鉄則です。**

手袋をつけていたから手はきれい、ではありません。手袋にはピンホールがある可能性もありますし、脱ぐ時に手を汚染させているかもしれません。手袋の中で汗をかき、細菌が増えているかもしれません。

手袋をはずした後の手指衛生もとても重要です。手袋をつけっぱなしにすると、この大事な手指衛生をするタイミングを逸してしまいます。

手袋を含むPPEは適切に使用し、手指衛生を正しいタイミングでおこないましょう。

文責：感染管理認定看護師 船原初美